

法人税

所得税

源泉税

消費税

国際課税

相続贈与

通則法

地方税

裁判裁決

その他

実例から学ぶ 税務の核心

～ひたむきな税理士たちの研鑽会～



<第63回>

特別編

令和4年度税制改正大綱を読んで

大阪勉強会グループ 著

(濱田康宏・岡野訓・内藤忠大・白井一馬・村木慎吾)

〔前回（第62回）はNo.3683（令和3年12月13日号）に掲載いたしました。〕

1 はじめに

濱田）また、今年

ました。今年は、 sample sample sample

期が例年より遅れ

は12月10日だったので、ほぼ例年並みでしたね。

村木）ただ、当日の公表が、例年は14時頃な

のに、今年はなんと18時過ぎでした。何かあつ

たかと気をもみました。

岡野）後ろの検討事項でも、全く登場しませんでした。あの騒ぎはなんだったのかというく

sample sample sample

sample sample sample

sample sample sample

せんね。
正でや
すね。

絞った改正というイメージですね。

(注) 令和4年度税制改正大綱はNo.3684（令和3年12月20日号）分冊に掲載。以下「分冊」という。

鳴動して鼠一匹、いや、鼠一匹すら出なかったとの印象です。

濱田）令和5年度税制改正ではどうなるのでしょうか。

内藤）可能性は否定しきれませんね。ただ、

課税方式の変更をそう簡単にできるものではないでしょう。

白井）平成21年度税制改正では、相続税の課税方式について、現状の折衷方式から、遺産取得者課税方式への純化を企図しましたが頓挫して、そのままです。御旗を上げた以上簡単には下ろせないのでしょうけど、なかなか課題が多い

1) 相続税・贈与税の一体課税の見送り

白井）目玉とも言われ、各種雑誌などでも大

sample sample sample

でしたね。

前贈与加算年数
う見直しの可能

性は、十分あり得るのかなと思います。